

花巻市学力向上アクションプラン（平成28年度版）

1 はじめに

花巻市教育委員会では、第1期教育振興基本計画のもと、平成26年度末に「花巻市学力向上アクションプラン」を策定しました。

平成28年度には、第2期花巻市教育振興基本計画が策定され、「郷土を愛し、丈夫な体と深い知性を持つ心豊かな市民が育つまち～すべての市民が学び合い、たくましく生き抜く強さと、思いやりの心を育む“人づくり”をめざして～」を基本目標に、具体的な教育事業が展開されます。この基本計画をもとに、花巻市学校教育指導指針では、以下の指導方針を掲げました。

1. 「学力」の向上
2. 「体力」の向上
3. 「豊かな人間性」の育成
4. 「個」に応じた支援体制の充実
5. 学校保健の充実
6. 教育環境の充実

この中で、「学力の向上」は平成28年度においても喫緊の課題であり、諸調査の結果で明らかになった課題の解決に向け、学校だけではなく家庭・地域と一体となった取組を行うことが必要です。

そこで、平成26年度策定時の現状値と平成27年度の実績値をもとに、子供たちの学力の状況を分析し、平成28年度版に反映させました。

2 平成26年度における花巻市の現状と平成27年度の実績

(1) 全国学力・学習状況調査（A：「知識」に関する問題、B：「活用」に関する問題）

ア 小学校6年生は、全国平均正答率と比較して、国語Aと算数Aは約2ポイント、国語Bと算数Bは約4ポイント上回りました。平成27年度は、国語A・Bと算数Aは、3～5ポイント上回りましたが、算数Bは1ポイント下回りました。

イ 中学校3年生は、国語についてはA問題、B問題ともに全国と同程度であります。数学については、A問題、B問題ともに全国平均正答率を4ポイント下回りました。平成27年度は、国語A・Bは、2～4ポイント、数学A・Bは約6ポイント下回りました。

ウ 中学校数学の関数や図形領域において、理由を説明したり証明したりする問題等で低い正答率でした。平成27年度も課題は継続しており、図形領域は全国正答率からA問題で6ポイント、B問題で9ポイント下回りました。

エ 中学校数学の正答数分布グラフを見ますと、全国と比べて、正答数の多い子供が上位に少なく、逆に不十分な子供が中位から下位にやや多いという状況でした。平成27年度も同様の傾向となっています。

(2) 岩手県学習定着度状況調査

ア 小学校5年生は、全教科で県平均正答率を約3ポイント上回りました。平成27年度は、算数と理科で2ポイント上回りました。社会は、県比と同値、国語は1ポイント下回りました。

イ 中学校1・2年生については、中学2年生の理科では県平均正答率を上回りましたが、それ

以外の教科は同程度もしくは下回る結果となりました。特に数学と英語は県平均正答率を約2ポイント下回りました。平成27年度は、中2だけの調査となりました。国語と理科が県比と同値、社会と数学は1ポイント下回り、英語は3ポイント下回りました。

ウ 中学校の各教科で、過去の調査において課題が見られた経年比較問題について、正答率が低い状況が継続しています。平成27年度も、同様の傾向が続いています。

(3) 児童生徒・学校質問紙調査

ア 「県学習定着度状況調査について、目標を設定して取り組んだ」と回答した学校の割合は、県よりは高いものの十分とは言えない状況です。(H26 小学校：58%、中学校：28%) 平成27年度は、(小学校：48%、中学校：28%) となっており、小学校で減少しています。

イ 「授業改善に向けて、校内研修に位置付けた教員相互の授業参観を行っている」と回答した学校の割合は、県と比べると若干低い傾向です。(小学校：95%、中学校：55%) 平成27年度は、(小学校：89%、中学校：64%) となっており、小学校で減少しました。中学校で増加していますが、県比を下回る状況です。

ウ 「各教科の授業内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合は県とほぼ同様ですが、学年が上がるにつれて、「わかる」割合が低くなっています。(小5：93%、中1：82%、中2：74%) 平成27年度は、(小5：88%、中2：77%) となっており、小学校で減少しています。

エ 「授業ではじめに授業の目標を確認している」(小：90%、中：77%) と「授業での学習内容の振り返り活動をしている」(小：90%、中：69%) と回答した児童生徒の割合は、小学校は県より高いのですが、中学校は低くなっています。平成27年度は、目標確認が(小：84%、中：82%)、振り返り活動(小：83%、中：71%) がとなっており、小中ともに県比を下回りました。

オ 「普段、1日に3時間以上テレビやビデオ、DVDを見る」と回答した児童生徒の割合は、県とほぼ同じですが、高い傾向にあります。(小学生：14%、中学生：17%) 平成27年度も同様の傾向です。(小：24%、中：23%)

	小5 (H27) %	中1 %	中2 (H27) %
ほとんど見ない	9 (2)	10	7 (2)
1時間未満	21 (19)	20	16 (15)
1～2時間	36 (27)	32	32 (33)
2～3時間	21 (24)	24	26 (27)
3時間以上	14 (27)	14	19 (23)

カ 「1日平均して、携帯型デジタル機器を1時間以上する(花巻市情報モラルアンケート)」と回答した児童生徒の割合は、昨年度より増加しており、高い傾向にあります。(小学生：12%、中学生：29%) 平成27年度は、現状維持の状況です。

	小学校 (H27) %	中学校 (H27) %
ほとんど使用しない	39 (38)	27 (23)
1時間未満	44 (45)	42 (42)
1～2時間	7 (10)	15 (18)
2～3時間	2 (3)	7 (8)
3時間以上	3 (3)	7 (8)

キ 「平日に1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合は、小学生、中学校ともに、県と比べて若干低くなっています。また、中学校2年生の学習時間が中学校1年生より少ない状況が見られます。平成27年度は、中2で改善が見られました。小5の回答は、県比より下回りました。

	小5 (H27) %	中1 (H27 調査なし)	中2 (H27) %
30分未満	6 (10)	7	15 (9)
30分～1時間未満	40 (34)	19	31 (21)
1時間以上	53 (55)	74	54 (71)

3 諸調査から見える花巻市の課題

- (1) 花巻市の現状の2 (1)、(2) より、各教科の平均正答率について、小学校は全国・県平均正答率を上回っていますが、中学校は下回っています。平成27年度も同様の状況が見られますが、小学校でも県比を下回る教科がありました。学力の基盤となる小学校段階での成果を維持しつつ、中学校の学力向上を図るために、各校が組織的な取組を行うことが求められます。
- (2) 花巻市の現状の2 (3) ア、イより、諸調査における目標設定と教員相互の授業参観の実施に課題があります。平成27年度も同様の状況が見られます。各校と教育委員会が各種調査を分析したうえで、学校ごとに具体的な目標を設定し、その目標達成に向けた組織的な取組を行うとともに、日常的な授業研究の推進を図る必要があります。特に、各校で策定する学力向上アクションプランの共有と確実な実施が求められます。
- (3) 花巻市の現状の2 (3) ウ、エより、授業内容が分かる割合については、学年が上がるにつれて低くなっています。平成27年度は、中学校で若干の改善が見られましたが、引き続き課題となっています。この原因については、学習内容が難しくなることもありますが、一方向的な講義形式の授業により、子供達が意欲をもって学習に取り組んでいないことが考えられます。子供が主体となり、体験を通して理解・納得することができる授業の実践をしていく必要があります。
- (4) 花巻市の現状の2 (3) オ、カ、キより、家庭学習については、平日に1時間以上勉強している割合が小・中学校ともに、県より低くなっています。中学校で若干の改善が見られましたが、平成27年度も同様の状況が見られます。学習内容の定着を図るためには、家庭学習のための時間確保も必要です。1日の生活時間は限られていることから、テレビやスマートフォン等の使用時間を減らしたり、部活動やスポーツ少年団活動等にあてる適正な時間について検討したりする必要があります。

4 平成27年度から30年度までの目標

全国学力・学習状況調査及び県学習定着度状況調査において、平均正答率以上を目指します。

特に、中学校の学力を向上させます。

5 目標達成のための方策

(1) 各校の組織的な取組

【目標】 目標を設定し取り組んだ学校の割合

(県学調：学校質問紙調査 14 「目標を設定して取り組みましたか」)

(%)	H26	H27 (実績)	H28	H29	H30
小学校	58	70 (48) ↓	90	100	100
中学校	28	50 (28) →	70	90	100

【具体的な取組】

主 体	取組内容
学校 家庭・地域	① P D C A サイクルに基づいた組織的な取組の支援 ・ P (目標、手立て、計画等を定めたアクションプランの作成) ・ D (学校・家庭・地域とともに実践) ・ C (多面的な検証、評価) ・ A (成果と課題を明らかにした指導実践)
学校 教育委員会	② 組織的な授業研究への支援 ・ 教員相互の授業参観の推進
教育委員会	③ 各種調査の分析と目標達成に向けた組織的な取組への支援 ・ 各種調査の分析資料の提示 ・ 各校の優れた取組紹介
	④ 授業サポーターによる少人数指導の充実 ・ 小学校8名、中学校3名に配置

(2) 授業改善の推進

【目標】 授業がわかる子供の割合 (%)

(県学調：児童生徒質問紙調査 「各教科の授業の内容はよくわかりますか」)

(%)	H26	H27 (実績)	H28	H29	H30
小学校5年	93	94 (88) ↓	95	95	95
中学校2年	74	76 (77) ↑	78	80	82

【具体的な取組】

主 体	取組内容
学校	① わかる授業・子供が主体となる授業実践の推進 ・ 明確な学習課題と振り返りの実践 ・ 全員参加、全員思考を目指す授業づくり ・ 体験を通して理解・納得させる授業づくり
学校 教育委員会	② 自己研修の推進 ・ 一人一研 (O J T) の活用
	③ 授業実践公開研究会の充実 ・ 授業力を向上するための日常的な実践交流 ・ 小中連携によるブロック内交流の推進

教育委員会	④ 中学校の授業改善のモデル提示 ・ 学力向上推進事業の実施 ・ 教育研究所による研究実践
	⑤ 指導主事による学校訪問、ふくろう講座の開設

(3) 家庭学習の充実

【目標】 1時間以上家庭学習に取り組んでいる児童生徒の割合

30分より少ない家庭学習に取り組んでいる児童生徒の割合

(県学調：児童生徒質問紙調査 8 「学校の勉強以外で、一日にどのくらい勉強しますか」)

1時間以上の学習 (%)	H26	H27 (実績)	H28	H29	H30
小学校5年生	53	55 (55) →	57	59	60
中学校2年生	54	60 (71) ↑	65	70	75
30分未満の学習 (%)	H26	H27 (実績)	H28	H29	H30
小学校5年生	6	5 (10) ↓	5	5	5
中学校2年生	15	10 (9) ↑	7	5	5

※ 小学生の家庭学習の時間は、読書や音読等をふくむ。

【具体的な取組】

主 体	取組内容
学校	① 授業と連動した家庭学習の取組 ・ 学習内容の定着を図るための課題提示 ・ 意欲を持たせるための工夫
学校 家庭・地域 教育委員会	② 家庭・地域と連携した家庭学習の取組 ・ 家庭と連携した家庭学習の習慣化や学習内容の充実 ・ 教育振興運動との連携（ノーメディア運動）
	③ 小中連携による家庭学習のやり方の共有 ・ 小中交流研修会等の活用
教育委員会	④ スポーツ少年団や部活動の在り方の研究 ・ 適正な活動時間等

各校で実施するPDCAサイクルの例



Plan (計画)

次年度の目標設定等

- ・目標を達成するための手立て、計画等を定めた学力向上アクションプランの作成

Action (改善)

成果と課題を明らかにした指導実践

- ・補充指導 (全体・個人)
- ・授業改善の視点、指導の重点を明らかにした授業実践

Do (実行)

学校・家庭・地域とともに実践

- ・各校の分析に基づいた授業実践
- ・少人数指導の工夫
- ・家庭学習の充実
- ・学校独自の取組

Check (評価)

多面的な検証、評価

- ・調査結果の分析と実態把握 (学習・生活)
- ・個人の状況の把握
- ・学校評価の活用

年間を通したPDC Aサイクルについて（平成 28 年度版）

日程	小5	小6	中1	中2	中3
4月	D 学校・家庭・地域とともに実践				
		全国学力・学習 状況調査	岩手県中学校 新入生学習状況 調査		全国学力・学習 状況調査
5月			C1 多面的な 検証・評価		
6月			A1 成果と課題 をもとに実践		
7月					
8月		分析結果の公表			分析結果の公表
9月		C、A			C、A
10月	岩手県学習 定着度状況調査			岩手県学習 定着度状況調査	
11月	C1、A1			C、A	
12月	教研式標準 学力検査(CRT)				
1月	P 各校における学力向上アクションプランの作成 → 県教委				
			中学1年生 英語確認調査 (CAN-DO テスト)	教研式標準 学力検査(CRT)	
2月	C2、A2		C2、A2	C2、A2	
3月	P 各校における学力向上アクションプラン → 市教委提出				
					県立高校入試
	D 学校・家庭・地域とともに実践				

各種学力調査からみた花巻市の学力

～平成27年度全国学力・学習状況調査、岩手県学習定着度状況調査結果から～

平成27年度全国学力・学習状況調査（以下全国学調）が4月21日（火）に小学6年生、中学3年生を対象に実施され、8月26日（水）には全国の結果が公表されました。また、平成27年度岩手県学習定着度状況調査（以下県学調）が、同年10月7日（水）に小学5年生、中学2年生を対象に実施され、11月20日（金）に岩手県の結果が公表されました。

H27 全国学力・学習状況調査の結果（小学6年生、中学3年生）

※A問題（主に知識の定着状況をみる問題） B問題（主に活用をみる問題）

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	中学校	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
花巻市	74.9%	70.7%	78.0%	44.0%	65.3%	花巻市	73.5%	62.3%	58.9%	35.2%	49.5%
岩手県	73.1%	67.9%	75.6%	42.8%	61.6%	岩手県	75.5%	64.8%	60.1%	36.7%	50.7%
国	70.0%	65.4%	75.2%	45.0%	60.8%	国	75.8%	65.8%	64.4%	41.6%	53.0%

【小学校】おおむね好ましい傾向、算数B（活用）に課題

算数Bを除くすべての教科で、全国平均正答率、県平均正答率を上回っており、おおむね好ましい状況といえます。主に活用をみる算数B問題では、県平均正答率を上回りましたが、全国平均正答率より1.0%下回りました。

【中学校】各教科とも基本的な知識の定着、活用に課題

全国や県の平均正答率と比較すると、残念ながらどの教科においても下回っている状況となりました。知識の定着状況をみるA問題の結果から、自分の課題を明らかにし、十分に補習をすることが必要です。

H27 岩手県学習定着度状況調査の結果（小学5年生、中学2年生）

小学校	国語	社会	算数	理科	中学校	国語	社会	数学	理科	英語
花巻市	62%	71%	75%	70%	花巻市	66%	45%	52%	56%	45%
岩手県	63%	71%	73%	68%	岩手県	66%	46%	53%	56%	48%

【小学校】算数科、理科では好ましい傾向

国語では県平均正答率を1%下回りました。社会は同値、算数、理科では上回り、おおむね好ましい状況といえます。

【中学校】各教科とも基本的な知識の定着、活用に課題

国語、理科では、県平均正答率と同値、社会、数学では1%、英語では3%下回りました。

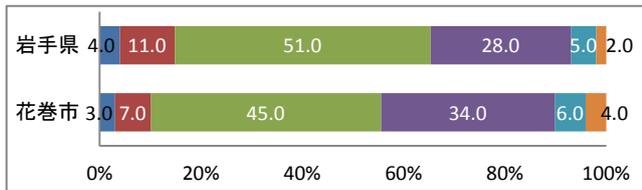
児童生徒質問紙調査の結果

※数値は肯定的に回答したもの（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合計）

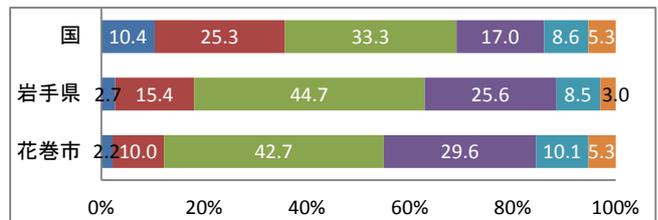
質問番号	質問事項（全国学調）	小学6年生			中学3年生		
		花巻市	岩手県	国	花巻市	岩手県	国
6	自分にはよいところがあると思いますか	75.5%	74.2%	76.4%	67.7%	65.0%	68.1%
21	家で学校の宿題をしていますか	98.1%	97.1%	96.8%	84.4%	89.7%	89.3%
24	学校に行くのは楽しいと思いますか	88.6%	86.7%	87.0%	85.1%	81.4%	82.1%
27	今住んでいる地域の行事に参加していますか	86.9%	82.8%	66.9%	70.3%	66.4%	44.8%
51	読書は好きですか	74.2%	74.0%	72.8%	69.7%	70.2%	67.9%

★家でどれくらいの時間勉強をしますか（平日）

県学調 児童生徒質問紙 <小学5年生> <中学2年生>

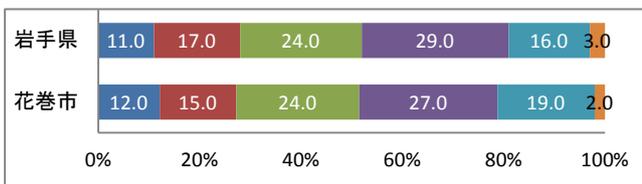


全国学調 児童生徒質問紙 <小学6年生> <中学3年生>

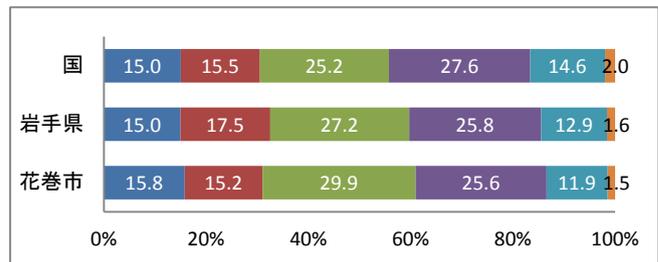
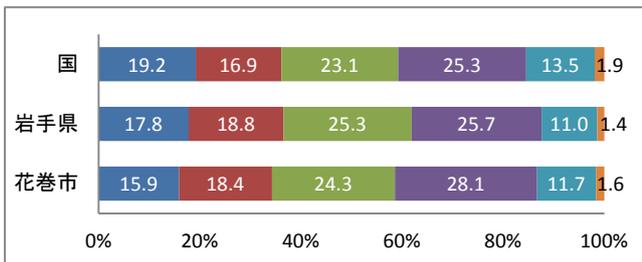


★家でどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見ますか（平日）

県学調 児童生徒質問紙 <小学5年生> <中学2年生>



全国学調 児童生徒質問紙 <小学6年生> <中学3年生>



主に特徴的な項目を取り上げました。全国学調の質問 21 の「家で学校の宿題をしていますか」という問いに対して、小6の98.1%、中3の84.4%が「している」「どちらかといえばしている」と回答しており、小6は県や全国を上回りましたが、中3では、県、全国を下回りました。

「家でどれくらいの時間勉強をしますか」（全国学調、県学調共通項目）という問いに対しては、1時間以上学習している割合が、小5で55%（県66%）、小6で71.7%（県74.5%、国62.7%）、中2で71%（県70%）、中3で54.9%（県62.8%、国69.0%）となりました。中2、中3で30分未満の割合が、小学校に比べて増えているところが課題といえます。

テレビやビデオ・DVD視聴時間の結果は、どの学年においても県や国との大きな相違が見られませんでした。

また、学校に行くのが楽しいと感じている児童生徒が県や国と比較して多く、地域の行事への参加率が非常に高い結果となりました。地域の力によって、自尊心が育まれていることが伺えます。

学校から与えられた宿題だけでなく、調査問題や結果を活かして自分の課題について知り、補習・復習をすることが大切です。一日の生活時間を見直し、学年に応じた自学時間を計画的に設けましょう。また、各学校では、これらの諸調査結果をもとに「学力向上アクションプラン」を策定し、児童生徒の学力向上のために組織的に取り組んでいます。